

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0673
施設名	わらしこ保育園
施設所在地	東京都府中市若松町4-27-6
法人名	社会福祉法人わらしこの会

・活動のテーマ

米（田植えから収穫、脱穀、精米）と米づくりの工程を知りながら、そこで暮らす農家の生活や文化を学ぶ

・テーマの設定理由

"米がどのように育ち、どれだけの手間と時間がかかるのかを知ること、
「食べ物は誰かの労働と自然の恵みでできている」という実感を得る。
食卓に並ぶまでのプロセスを知るとは、食べ物を大切にする心につなげていく。"

・活動スケジュール

6月2日(月)～6月7日(土)

新潟県十日町市松之山にて田植え体験

6月28日(土)・7月12日(土)

親子で草取り体験

9月29日(月)～10月4日(土)

新潟県十日町市松之山にて稲刈り体験

10月11日(土)

親子で脱穀体験

6月～11月の期間中は保育園の園庭に田植えした稲の成長の観察を保育の中で観察していく

・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

園庭の田んぼと新潟県十日町市松之山にて現地の田んぼをお借りする。

お米の苗

新潟に行くまでの往復バス

田んぼ用の服（しゅらみい）

・活動の内容

【春の松之山合宿 6月2日(月)～7日(土)】

6月2日(月)・1日目

年長児の合宿が始まり、朝は家族と離れる寂しさを感じる子もいたが、仲間と集まり気持ちを切り替えて出発。初日は田植えに向けた準備として、田んぼの様子を見たり、現地でお世話になる方へのあいさつにまわる。自然の中での活動に期待を膨らませる姿が見られた。

6月3日(火)・2日目

松之山周辺の散策を中心に活動。山道を歩きながら草花や虫を観察し、自然の豊かさを感じる一日となった。仲間と発見を共有しながら、協力して行動する姿が見られた。明日からの田植えに向けて期待を膨らませやる気に満ちた様子も感じられた。

6月4日(水)・3日目(田植え本番)

いよいよ田植えの日。泥の感触に歓声を上げながら、苗を一本一本丁寧に植えていく。最初は戸惑う子もいたが、次第にコツをつかみ、友だちと声を掛け合いながら進める姿が印象的。田んぼの中で協力し合うことで、自然と助け合いの気持ちが育っていった。

6月5日(木)・4日目

前日の田植えを振り返り、苗の様子を観察。「まっすぐ立っているかな」「大きくなるかな」と興味をもって見つめる姿が見られた。泥遊びや水の流れの観察を通して、田んぼの生き物や環境への関心が広がる。午後は田植えの体験を絵や言葉で表現する時間を持った。

6月6日(金)・5日目

田んぼ周辺の自然散策。植えた苗の様子を確認しながら、周囲の植物や虫の変化に気づく。田植えを通して「命を育てる」ことへの実感が深まり、自然との関わりを楽しむ姿が多く見られた。夜は静かな時間を過ごし、合宿での体験を振り返った。

6月7日(土)・6日目(最終日)

合宿の締めくくりとして、田植えの経験をみんなで振り返る。自分たちの手で植えた苗が育っていくことへの期待を語り、自然と笑顔があふれる。荷物整理や片付けも自分たちで行い、最後まで協力して行動。達成感と充実感に包まれながら帰路についた。





【草取り 6月28日(土)・7月12日(土)】

親子で松之山の自然を体験しながら、春の合宿で植えた田んぼの草取りを楽しむ。



【秋の松之山合宿 9月29日(月)～10月4日(土)】

9月29日(月)・1日目

秋晴れの中、わらしこ・わらしこ第2保育園合同の合宿がスタート。出発前から「お米大きくなっただかな」「草取りの時は緑色だったね」と稲の成長を思い出す声が聞かれ、期待と少しの緊張が入り混じった様子。バスの中では友だちと歌を歌ったり、景色の変化に歓声を上げたりしながら目的地へ向かった。

9月30日(火)・2日目(稲刈り開始)

この日からいよいよ稲刈りが始まる。鎌を手に、稲の穂を一束ずつ丁寧に刈り取る。最初は慎重だった子ども、次第にリズムをつかみ「ザクッと切れた!」と達成感を味わう。刈り取った稲を束ねる作業では、友だちと協力しながら「重いけど頑張ろう」と声を掛け合う姿が印象的。自然の恵みを実感する一日となった。

10月1日(水)・3日目(稲刈り・はせ干し)

前日に続き、田んぼ全体の稲を刈り進める。稲穂の香りに包まれながら、グループで協力し

合いながら稲刈りを進める。束ねた稲を見て「これでごはんになるんだね」と実感を深める子もいた。束ねた稲を子どもたちが担いではせ場まで運び稲を干す。

10月2日（木）・4日目（稲刈り・はせ干し）

今日は朝から雨、残りの稲をどう刈るか作戦タイム。午後には雨もやみ稲刈り再開。稲を刈る子と運ぶ子に分かれての作業。はせ場までは急な斜面が続ぎ、子どもたちは稲束を肩に担いで何往復もする。「滑らないようにね」「もう一回運ぶ！」と声を掛け合いながら、一步一步力強く登っていく姿が見られた。稲を掛けるときには「はせに上る子と下からお米を渡す子」と役割をもって協力しながら干していく。昨日よりも干す量が増えて「もう少しだね」「明日のには終わらせる」とやる気に満ちる子どもの様子があった。

10月3日（金）・5日目

この日ですべての稲のはせ干しが完了。田んぼからはせ場までの往復を重ねた達成感に満ち、「全部干せたね」と稲の壁を目の前に、誇らしげに眺める子どもたち。午後は第2保育園と一緒に刈り上げパーティーを行い、稲刈りをみんなの力でやりきった喜びを分かち合いました。

10月4日（土）・6日目（最終日）

合宿の締めくくりとして、稲刈りとはせ干し作業を通して感じたことをみんなで話し合う。「お米を育てるってすごい」「食べるのが楽しみ」と話す姿に、自然と笑顔が広がる。荷物整理や片付けも自分たちで行い、最後まで協力して行動。秋の実りを体験し、仲間との絆を深めた一週間となった。



【脱穀 10月11日(土)】

親子でお米の脱穀作業を体験する。



・活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり

【春の松之山合宿】

田んぼに入る前に泥を見て

「冷たい！」「気持ちいい！」

と歓声を上げる。初めての感触に驚きながらも、笑顔で泥に足を踏み入れる姿が見られた。

苗を植えながら

「まっすぐ立ったかな？」「ここにも植えたい！」

と声を掛け合い、友だち同士で確認しながら進める。自然と協力し合う姿が印象的。

苗が倒れたのを見て

「もう一回やってみる！」

と自分から挑戦する言葉が出る。失敗を恐れず、試行錯誤する姿勢が育っている。

田植え後の観察では

「大きくなるかな」「水がきれいだね」「カエルがいる！」

と、苗や生き物への興味が広がる。自然の変化に気づき、言葉にして伝える姿が多く見られた。

振り返りの時間には

「泥だらけになったけど楽しかった」「自分で植えたから大事にしたい」

と、自分の体験を誇らしげに語る。命を育てる喜びを実感している様子が伝わる。

【秋の松之山合宿】

「もう少し!」「ありがとう!」

稲を刈る手を止めずに声を掛け合う姿。互いに励まし合いながら作業を進めていた。

「終わったんだね」「おめでとう!」

稲刈りを終えた仲間にならぬ言葉。達成の喜びを共有する瞬間。

「全部刈ったよ!」「頑張ってね!」

自分の作業が終わっても、まだ頑張っている友だちを応援する声。協力と支え合いの気持ちが育っている。

「稲刈り頑張ってね」「ありがとう」「頑張るね!」

午後、別のグループが稲刈りをしているときのやりとり。応援する気持ちが自然に広がり、活動全体に温かい雰囲気が生まれていた。

「お米がおいしい」

新米の甘味や香りを感じる。

ご飯を山盛りにして食べる姿があった。

【園庭田んぼ】

稲の成長を年長、年中の子どもたちを中心に観察

年長児が合宿で植えて来た苗を少し持ち帰り、園庭の田んぼに田植えを行う。

田植えの様子を年中の子どもたちが見る。

稲の成長を観察

秋の稲刈り合宿の体験で身に付けた稲刈りを年長が年中の子どもたちに見せる。



・振り返りによって得た先生の気づき

【子どもたちの姿から得た気づき】

泥の感触や稲の匂いなど、五感を使って関わることで、子どもたちが米の成長を感じ、命という実感を持ち始めていた。

収穫の頃には「こんなに大きくなったね」「お米って重いんだね」と、稲の成長を自分ごとのように語る姿が見られ、活動が生活とつながっていることを実感した。

【米づくりの工程を通して見えた学び】

お米を育てるための様々な工程を知り、農家の仕事を知ることでお米に対する見方や食に対する意欲が変わっていった。

脱穀や精米の工程を体験することで、普段は見えない“食卓に届くまでのプロセス”を理解し始め、食べ物を大切にすることが育っていると感じた。

【職員自身の気づき・学び】

米づくりは“教える活動”ではなく、子どもと一緒に自然の変化を喜び、驚き、考える“共に育つ活動”であることを改めて感じた。

農家の方の話を聞く中で、地域の文化や暮らしが米づくりと深く結びついていることを知り、子どもたちにもその背景を丁寧に伝えていきたいと思った。

【今後につなげたい視点】

食育を“食べること”だけでなく、“育てる・関わる・知る”という広がりのある学びとして継続していきたい。

米づくりの経験を、日々の食事の場面や行事（餅つき、収穫祭など）とつなげ、子どもたちの生活全体に根づかせたい。